

時短エクセル(第54回)

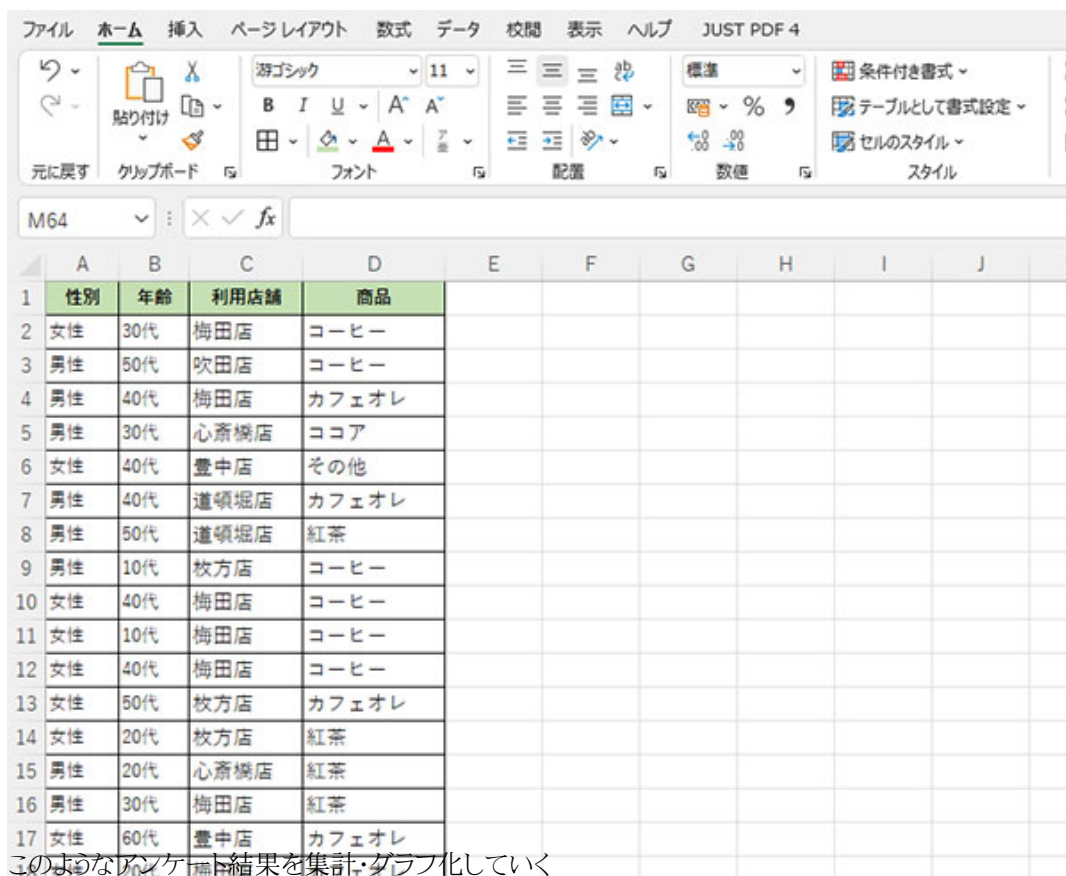
アンケートを集計してグラフ化する(2)

2022.05.02

前回、Webで収集したアンケートを集計してグラフ化するに当たっての下準備と、並べ替え機能を使った簡単な集計および円グラフの作成を説明した。今回は、単一選択の集計方法として、関数を使った方法を紹介しよう。

店舗名を書き出して関数でカウントする

前回同様、とあるコーヒーショップのアンケートを例に説明する。件数は分かりやすいように50件とした。



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	性別	年齢	利用店舗	商品						
2	女性	30代	梅田店	コーヒー						
3	男性	50代	吹田店	コーヒー						
4	男性	40代	梅田店	カフェオレ						
5	男性	30代	心斎橋店	ココア						
6	女性	40代	豊中店	その他						
7	男性	40代	道頓堀店	カフェオレ						
8	男性	50代	道頓堀店	紅茶						
9	男性	10代	枚方店	コーヒー						
10	女性	40代	梅田店	コーヒー						
11	女性	10代	梅田店	コーヒー						
12	女性	40代	梅田店	コーヒー						
13	女性	50代	枚方店	カフェオレ						
14	女性	20代	枚方店	紅茶						
15	男性	20代	心斎橋店	紅茶						
16	男性	30代	梅田店	紅茶						
17	女性	60代	豊中店	カフェオレ						

このようなアンケート結果を集計・グラフ化していく

まずは、表の横に店舗名を書き出そう。横に利用者数を書くので表形式にしておく。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	性別	年齢	利用店舗	商品		利用店舗				
2	女性	30代	梅田店	コーヒー		梅田店				
3	男性	50代	吹田店	コーヒー		道頓堀店				
4	男性	40代	梅田店	カフェオレ		心斎橋店				
5	男性	30代	心斎橋店	ココア		吹田店				
6	女性	40代	豊中店	その他		豊中店				
7	男性	40代	道頓堀店	カフェオレ		枚方店				
8	男性	50代	道頓堀店	紅茶						
9	男性	10代	枚方店	コーヒー						
10	女性	40代	梅田店	コーヒー						
11	女性	10代	梅田店	コーヒー						
12	女性	40代	梅田店	コーヒー						
13	女性	50代	枚方店	カフェオレ						
14	女性	20代	枚方店	紅茶						

ベースとなる表の横にこのような表を作成する

次に梅田店を利用する人数をカウントする。こういうときには、条件に合うセルを数える「COUNTIF(カウントイフ)」という関数を使う。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	性別	年齢	利用店舗	商品		利用店舗				
2	女性	30代	梅田店	コーヒー		梅田店	=COUNTIF(\$C\$2:\$C\$51,F2)			
3	男性	50代	吹田店	コーヒー		道頓堀店				
4	男性	40代	梅田店	カフェオレ		心斎橋店				
5	男性	30代	心斎橋店	ココア		吹田店				
6	女性	40代	豊中店	その他		豊中店				
7	男性	40代	道頓堀店	カフェオレ		枚方店				
8	男性	50代	道頓堀店	紅茶						
9	男性	10代	枚方店	コーヒー						
10	女性	40代	梅田店	コーヒー						
11	女性	10代	梅田店	コーヒー						
12	女性	40代	梅田店	コーヒー						
13	女性	50代	枚方店	カフェオレ						
14	女性	20代	枚方店	紅茶						

G2セルに「=COUNTIF(\$C\$2:\$C\$51,F2)」と記入する

引数は2つ。1つ目が「範囲」で2つ目が「検索条件」だ。範囲は、利用店舗セルを指定する。コピーしてもずれないように「F4」キーを押して絶対参照にしておく。G2セルに「=COUNTIF(」と入力した後、「F4」キーを押したまま指定範囲をドラッグすればよい。範囲指定後、「)」を打ったら、次は検索条件を入力する。検索条件はF2、すなわち「梅田店」だ。この範囲の中で「梅田店」と書いたセルがいくつあるかを自動で数える。

G2 × ✓ fx =COUNTIF(\$C\$2:\$C\$51,F2)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	性別	年齢	利用店舗	商品		利用店舗				
2	女性	30代	梅田店	コーヒー		梅田店	15			
3	男性	50代	吹田店	コーヒー		道頓堀店				
4	男性	40代	梅田店	カフェオレ		心斎橋店				
5	男性	30代	心斎橋店	ココア		吹田店				
6	女性	40代	豊中店	その他		豊中店				
7	男性	40代	道頓堀店	カフェオレ		枚方店				
8	男性	50代	道頓堀店	紅茶						
9	男性	10代	枚方店	コーヒー						
10	女性	40代	梅田店	コーヒー						
11	女性	10代	梅田店	コーヒー						
12	女性	40代	梅田店	コーヒー						
13	女性	50代	枚方店	カフェオレ						
14	女性	20代	枚方店	紅茶						

「Enter」キーを押せば確定され、梅田店を利用する人数が分かる

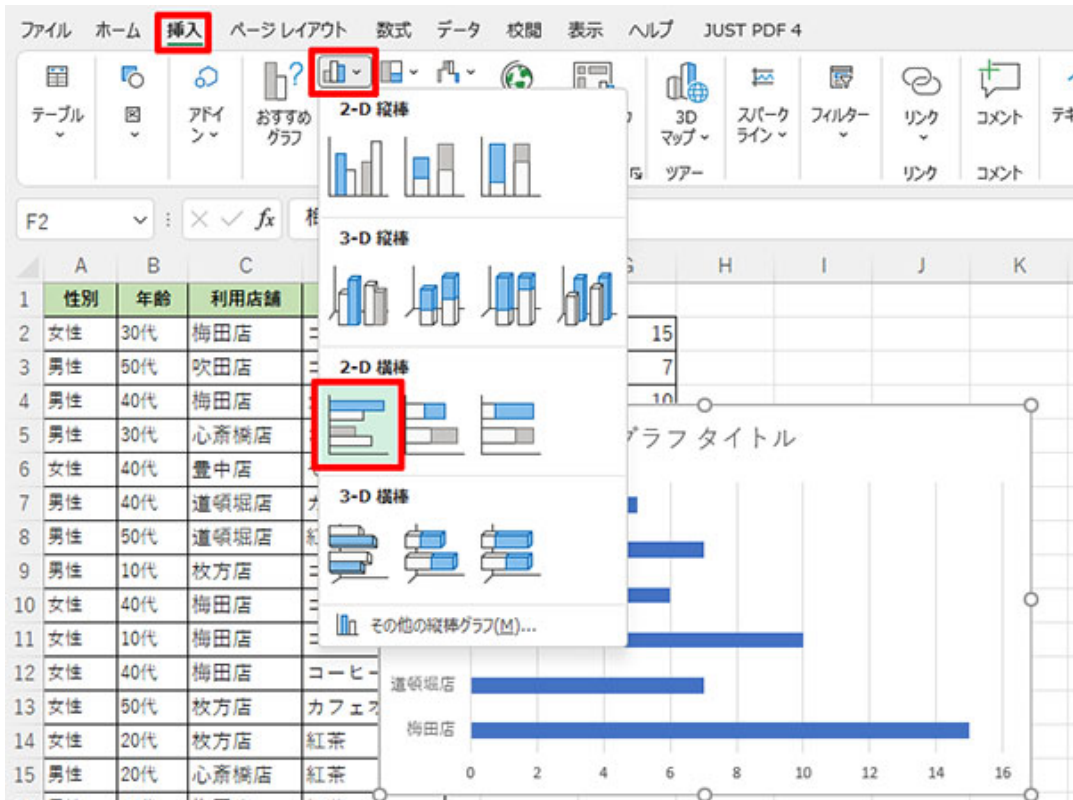
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	性別	年齢	利用店舗	商品		利用店舗				
2	女性	30代	梅田店	コーヒー		梅田店	15			
3	男性	50代	吹田店	コーヒー		道頓堀店	7			
4	男性	40代	梅田店	カフェオレ		心斎橋店	10			
5	男性	30代	心斎橋店	ココア		吹田店	6			
6	女性	40代	豊中店	その他		豊中店	7			
7	男性	40代	道頓堀店	カフェオレ		枚方店	5			
8	男性	50代	道頓堀店	紅茶						
9	男性	10代	枚方店	コーヒー						
10	女性	40代	梅田店	コーヒー						
11	女性	10代	梅田店	コーヒー						
12	女性	40代	梅田店	コーヒー						
13	女性	50代	枚方店	カフェオレ						
14	女性	20代	枚方店	紅茶						

G2の右下のハンドルを下までドラッグする

下までドラッグしてコピーすれば、6店舗の利用者数が一瞬で分かる。この数を合計すると当然50となる。

集計結果を基に棒グラフを作成する

ではこの表を基に、棒グラフを作成してみよう。今回は、平面の横棒グラフを作成するが、3Dや縦棒グラフでもよい。割合が知りたいときは円グラフにすると分かりやすい。

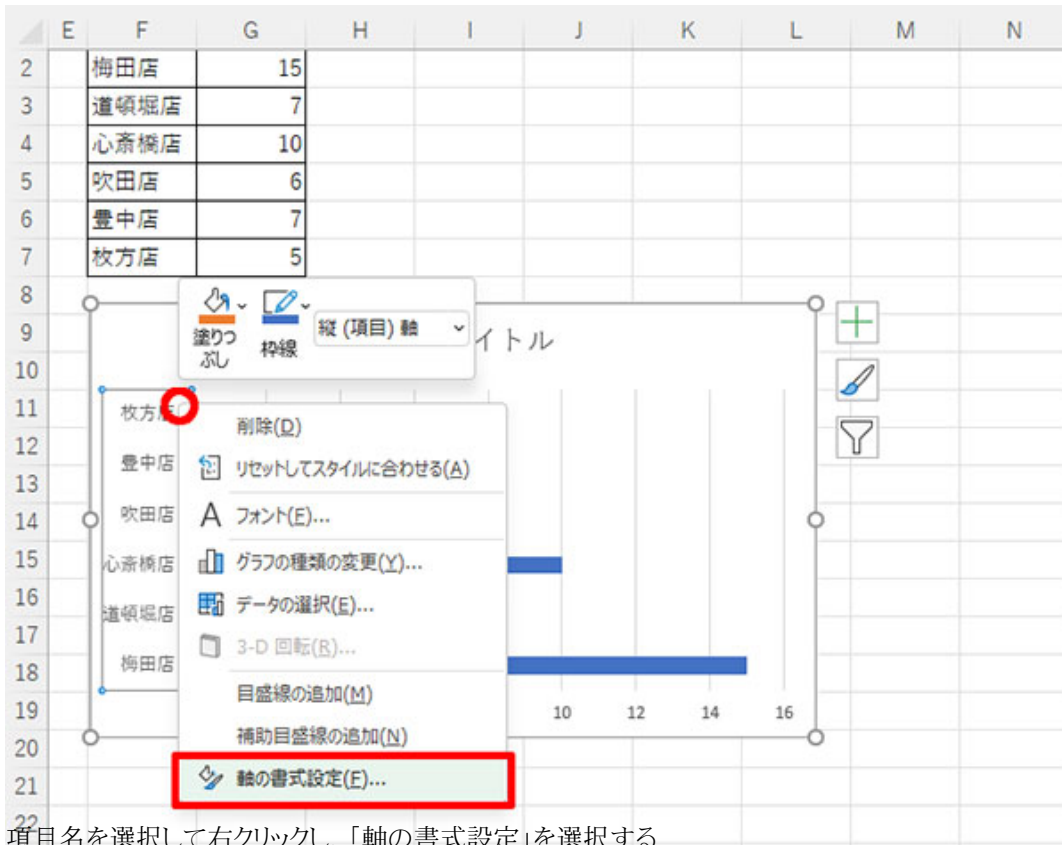


表を選択し、「挿入」タブの「グラフ」グループの中から「縦棒/横棒グラフの挿入」-「2-D 横棒」-「集合横棒」を選択する

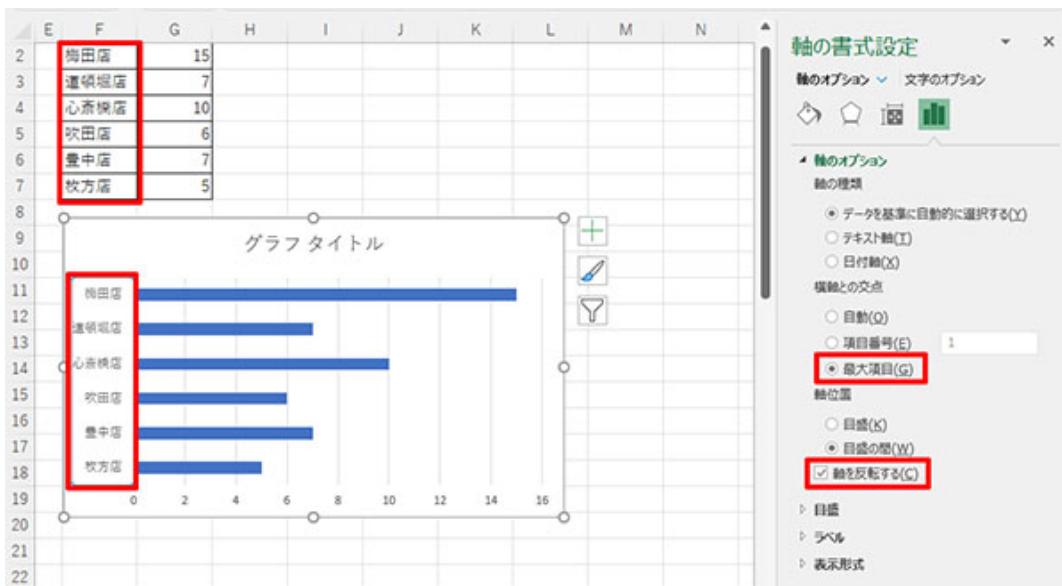


グラフが作成できたが、グラフは項目名が表と逆になっている

グラフが作成できたが、Excelで横棒グラフを作成すると、表とグラフで項目の順番が逆になってしまう。これを修正しよう。



項目名を選択して右クリックし、「軸の書式設定」を選択する



設定画面の「横軸との交点」で「最大項目」を選び、「軸位置」で「軸を反転する」のチェックをオンにする

グラフの項目名の部分を選択して右クリックし、「軸の書式設定」を選択する。そして、開く設定画面の「横軸との交点」で「最大項目」を選び、「軸位置」で「軸を反転する」のチェックをオンにすると、表と同じ並び順になる。

別のシートに集計表を作りたい場合… 続きを読む